

3

3

有未機關 第 號
太平洋戰略爆撃調査本部發

大日本帝國陸軍參謀本部參謀ニ對スル質疑ニ關スル件

(復連)
五九十一
二二二二二

昭和二十年十二月十一日
第一復員省

0023

昭和二十年十二月十一日
第一復員省

0024

一日下地中移す様楊
二日下地中移す様楊
三日下地中移す様楊
四日下地中移す様楊
五日下地中移す様楊
六日下地中移す様楊
七日下地中移す様楊
八日下地中移す様楊
九日下地中移す様楊
十日下地中移す様楊

「日本ニ於ケル戦争指導機構ハ左ノ如キ合議制ノモノナリ」

局長（戦時）ニ關シテハ大本營政策（戦時）ニ關シテハ政府之ヲ協議シ大本營政府連絡會議（最高戦争指導會議）ニ附屬シ意見ノ一致ヲ求ムニ關シテハ口頭ニ關シテハ互ニ協議決定ヲ經テ該ニ戦争指導ニ關スル國家ノ最高政策ヲ決定ス有ノ具體的實行ハ政府連絡會議及大本營連絡（部）軍部先々定ム當ル

參謀本部シテ戦争指導ニ使ハ

日本ニ於ケル最高戦争指導會議ハ制度的ニハ大本營ト政府トノ連絡機構ニシテ府閣官制上ノ機關ニアラズ又他國ニ於ケルカ如ク特定ノ機關ヲ有シ統帥部及政府ヲ指導命令ヲ得ルカ如キ機關ニアラズ

以上ノ如ク最高戦争會議ハ決定及實行ノ機關ナキヲ以テ之ニ影響ヲ及ボスカ如キ組織及機能等ナシ

以テ參謀本部ノ機構ハ總合若干ノ機關アリタルニ非ズ戰時ニ於ケル

機構刷新ノ如シ

手
向
下

参謀本部ハ一國府及地方ニ關スル計畫ヲ掌ル平時機關ニシテ
 大正十三年十一月大本營ヲ廢止新設セラルル組織ニ於テ
 参謀本部ハ組織セラルコトヲ大本營廢止後ト二位一體ト
 ナリアリタルニ對シテ廢止ハ廢止ノ有無無實ノ存在トナリアリ
 又参謀本部ハ日本ノ戰争指導ニ關シテ何等ノ機關ニ對シ
 普ニ關係ヲ有セム
 参謀本部ハ日本ノ戰争ニ關シテ何等ノ機關ニ對シ
 日本國ニ對シテ何等ノ機關ニ對シ
 日本國ニ對シテ何等ノ機關ニ對シ

大本營參謀部ノ組織	大	大	大	大
参謀部長	大	大	大	大
参謀次長	大	大	大	大
大本營參謀部	大	大	大	大
位(附)官	大	大	大	大

大日本帝國軍醫官部

大日本帝國軍醫官

位(附)官

事務主任ノ人員ヲ附屬セシム

事務主任(附)官二十七及下士官(判任士官)五十

名ノ外教育總監部其ノ他關係陸軍部職員ヲシテ參謀又ハ

事務用ヲ兼務セシムルコトヲ得

陸軍部長(大日本帝國軍事務長)ノ任務

陸軍部長ハ大日本帝國軍事務及大日本帝國軍防務ヲ監督シ陸

軍ノ作戰ヲ企画シ之ヲ陸軍關係諸官ニ傳達スルヲ任ストス

陸海軍協同作戰ハ陸ノ軍令部部長ト協同決定ス

大日本帝國陸軍總機關

▲兵站總監部及其ノ陸屬機關

大日本帝國軍糧部

大日本帝國軍在外武官

大日本帝國軍醫官部

○陸軍大臣ハ所長ノ職ヲ後ヘ大寺督ノ職ニ列ス

○陸軍大臣ハ國務大臣トシテ閣員ニ列スルト共ニ陸軍部ノ一員トシテ大本營ニ入り兩府閣ノ職務ナル建議ニ任シ又政院、相閣等ニハ重要職務ニ就テハ所長ニ應ジ關係關係ト陸軍部首領者トノ會議ヲ行フ

○教育總監、陸軍總監並ニ大本營陸軍部ニ列シ教育總監ノ職務ヲ爲ス

明治一十九年一月一十九日四年一月ニ於ケル日本海軍本部ノ組織規程並ニ海軍力増強ノ政策

海軍將領部ノ所長ニ屬スル各級ハ海軍ヲルニ責任者ノ組織及職務等々一十九年四年初頭ノ所長職務ニ使ハれる所長下ノ如ク海軍等ニ關シテ正副ヲ爲シ置ク

明治一十九年三年初頭ニ於ケル所長

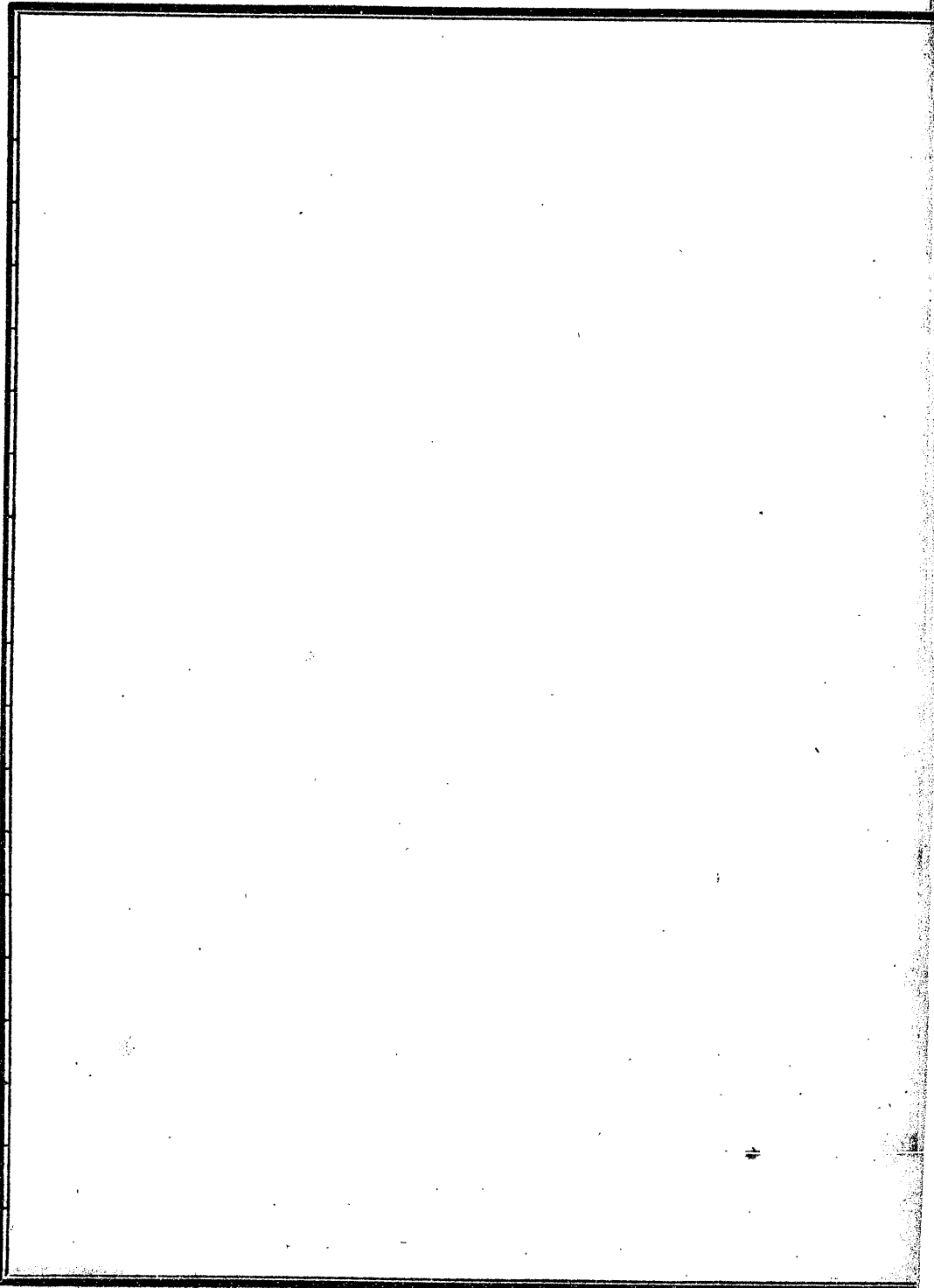
當時ニ於ケル海軍力ハ可能限度ノ約五二五萬最大艦七二五萬ハ其力増強力比リ前第一次大戰時ヲ參照シ其ノ限度ヲ推

九 國 公 報

一九四四年五月頃ニ於テハ聯合艦隊ノ戰争遂行能力判斷別表
第一乃至第五ノ如キ

一九四一年十二月刊
於一九四一年十二月刊
日本陸軍
一、敵艦隊及敵艦隊





日本標準規格 B-4

0030

參謀本部機構機能圖表（現行）												
編成（區分）												
任務												
一、發受、文書（電報）ニ關スル事務 二、參謀本部内ノ人事 三、參謀本部ノ人事ニ關スル事項												
陸軍作戰部隊ノ教育ニ關スル事項												
地上軍ノ作戰運用ニ關スル事項 航空部隊ノ作戰運用ニ關スル事項 兵站ノ重要企劃ニ關スル事項												
一、東亞、蘇聯ノ軍事情勢ニ關スル事項 二、歐亞及全蘇ノ情報收集等ニ關スル事項 三、東亞及滿洲ノ兵要地誌ニ關スル事項 四、東亞ノ情報收集等ニ關スル事項 五、英國ノ情報收集等ニ關スル事項 六、中部太平洋及南方地域ノ戰況ニ關スル事項												
兵要地誌ニ關スル事項 對米英戰法ノ研究ニ關スル事項 支那方面ノ政治情報及兵要地誌ニ關スル事項 支那方面ノ軍事情勢ニ關スル事項												
一、鐵道ノ運用ニ關スル事項 二、鐵道ノ統制及之ニ關スル諸規定ノ企劃ニ關スル事項 三、船舶ノ運用ニ關スル事項 四、船舶ノ統制及之ニ關スル諸規定ノ企劃ニ關スル事項												
一、通信ノ編制、動員、教育訓練ニ關スル事項 二、通信ノ運用ニ關スル事項 三、電氣兵器ノ運用ニ關スル事項 四、氣象ノ運用ニ關スル事項 五、暗號、略號ニ關スル事項												
一、地上部隊ノ編制、編成、動員ニ關スル事項 二、陸軍制度及諸規則ニ關スル事項												
航空部隊ノ編制、編成、動員ニ關スル事項 一、軍需動員ノ基本ニ關スル事項 二、陸軍省軍務局ノ裝備ニ關スル事項												
國內一般政策ニ關スル事項												
海外班 外北下ノ交渉ニ關スル事項												
教育總監部第一課 ト二位一体トス												
陸軍省軍務局ト二位一体トス												

別紙第一

聯合諸國兵力判断概見表

於一九四四年初頃

備考	合計	海軍 (單位萬)	航空兵力 (單位萬) (括弧内飛行機數)	地上軍 (單位萬) (括弧内師團數)	區別	
					米軍	英軍
飛行機數ハ 陸海軍第一 線戰鬥用機 ヲ示ス	兵力 一、〇六〇 (二六、二〇師) 飛行機 一、〇〇〇	二九〇 (内海兵部隊 七一八師團)	二三〇 (但シ陸軍ミ 括弧内飛行機數 (一八、〇〇〇))	三、四〇 外ニ補給及 補充軍 二、〇〇〇 (三九、五二二)	本國軍	三、七〇
	五、一〇〇 (六、九師) 五、一〇〇 (五、二七師)	六〇 (含新西蘭)	八〇 (九、六〇〇) 一一一 (五、〇〇〇)	七、二〇	豪軍	七、二〇
	七〇〇 (一七師)	七	七〇 (七、〇〇〇)	四、七〇	蘇聯軍	四、七〇
	一、〇〇〇 (四一師)	一	七〇 (七、〇〇〇)	一、六六	印度軍	一、六六
	二〇〇 (一〇師)	一	二〇 (二、〇〇〇)	一、六〇	南阿軍	一、六〇
	三〇〇 (五師)	一八	二〇 (三、〇〇〇)	一、六〇	新西蘭軍	一、六〇
	二九、四〇〇 (三九、三〇 三九、九師)	二、〇三三 海兵七一八師團	三、四四〇 (三九、四〇〇)	二、二二七 (二六、一五二)	合計	二、二二七

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

聯合諸國人的動員狀況推定一覽表

一九四四年初頭

事項別	米	英	加	濠
要旨	米國ハ本年度概ネ兵力二二萬 勞働力五五五萬計六五八萬 動員ヲ實施シテ以テ本年度全 圖スル戰爭遂行上有利且最 モ調和セル態勢ト目シラルル也 ニ兵力動員ハ現徴兵年令層ヨリ セハ漸ク極限ニ達セントシタルト 共ニ勞働力亦男子ノ生産年 令層ニ余カナク今後主トシテ女子 (余力約二〇萬)及老幼者ニ求 メサルカナルモ三六〇期ニ 保持スルコト困難ナルヲ企 題ハ米國戰爭遂行上隘路 ト化シアリ	英帝國自人口約二二〇萬中既就働者(含兵力)總數三四二萬乃至三萬(内兵力 七〇萬)總人口四四五分以上ニ達シアリテ動員余力ハ僅少ト謂フヲ得ヘク人の 資源ノ缺乏ハ英國抗戰力ノ最大弱點ヲ成シアリ 印度ハ總人口約三億九一萬ヲ算シテ尨大ナル補給源ト考ヘラルルモ其 ノ反英思想ノ知的能力並ニ技術ノ低水準ニ因リ兵力及勞働動員 共ニ大ナル制約アリ	總人口七二二萬内生産年令 人口(一四〇一六四〇、男女) 四九二萬ニシテ現有總兵力 一五萬(女子一九萬ヲ含ム)更 ニ六五萬ニシテ兵力及就働 人口ハ概ネ極限ニ達シアリ 今後ハ人の資源ノ効果的 再配置及能率増進ニヨリ 戰力増強ヲ圖ル外途ナキ モノト判斷ス	總人口七二二萬内生産年令 人口(一四〇一六四〇、男女) 四九二萬ニシテ現有總兵力 一五萬(女子一九萬ヲ含ム)更 ニ六五萬ニシテ兵力及就働 人口ハ概ネ極限ニ達シアリ 今後ハ人の資源ノ効果的 再配置及能率増進ニヨリ 戰力増強ヲ圖ル外途ナキ モノト判斷ス
全人口(萬)	一三、六〇〇	四、七〇〇	一、一七〇	七、二二
生産年令人口(對全人口比)	(九、一三八) (六七・二%)	(三、三〇〇) (七〇・八%)	(七〇〇) (六五・八%)	(四、九二) (六八・一%)
兵力動員總數(對全人口比)	(一、〇〇〇) (七・四%)	(五、六〇〇) (二・九%)	(七、三〇〇) (六・三%)	(一、一〇〇) (一五・二%)
兵力絕對増耗	三〇	五〇	二	五
現在兵力	(2) 九七〇	(2) 五一〇	七一	一〇五
動員余力	9)			

注		全人口(萬)	生産年令人口(對全人口比)	兵力動員員數(對全人口比)	兵力絕對損耗	現在兵力	動員余力	就働人口總數(對全人口比)	同右男	同右女	労働員數(對全人口比)
保持スルコト困難ナルハハシメテ 題ハ米國戦争遂行上隘路 ト化シアリ		一三、六〇〇	(1) 九、一三八 (對全人口比) (六七・二%)	一、〇〇〇 (對全人口比) (七・四%)	三〇	(2) 九七〇	(3) 一〇〇	五、三〇〇 (對全人口比) (三九・〇%)	三六〇〇	一七〇〇	六、三〇〇 (對全人口比) (四六・三%)
其ノ最も顯著ナルハ炭坑 業ニシテ徴兵者ヲ抽籤 ニヨリ強制シテ就業セシメ アルモ自然ニ損耗及轉出 者ヲ補充ニ足ラス寧ろ 減少ノ傾向ニアリ		四、七〇〇	(1) 三、三〇〇 (對全人口比) (七〇・八%)	五六〇 (對全人口比) (二・九%)	五〇	(2) 五一〇	ナシ	(3) 一、八四〇 (對全人口比) (三九・一%)	九九〇	八五〇	二、四〇〇 (對全人口比) (五二・〇%)
セシムルハ尙六、萬以上ノ 抽出可能ナリ		一、一七〇	(1) 七〇〇 (對全人口比) (六五・八%)	七三 (對全人口比) (六・二%)	二	七一	約三〇	(3) 四、五〇 (對全人口比) (三八・四%)	二九〇	一六〇	五、二三〇 (對全人口比) (四四・七%)
人口ハ概ネ極限ニ達シアリ 今後ハ人的資源ノ効果的 再配置及能率増進ニヨリ 戦力増強ヲ圖ルノ外途ナキ モノト判断ス		七、二二	(1) 四、九二 (對全人口比) (六八・一%)	(2) 一一〇 (對全人口比) (一五・二%)	五	一〇五	ナシ	(3) 二、六五 (對全人口比) (三六・七%)	一四五	一二〇	三、七〇 (對全人口比) (五二・二%)
(1) 生産年令一四一六四才 (2) 女子補助軍一九二萬ヲ含ム (3) 生産年令人口四九二萬中 一二、萬ノ未就業者ハ男 子ニアリテハ老幼不具者 ニシテ労働ニ堪ヘサルモノ (約三、萬) 女子ニアリテハ 在家庭婦人ニシテ扶養ス ヘキ子女ヲ月スルモ及病 氣老令通學等ノ理由 ニヨリ労働力ヲ得サル モノ(約九、萬)ナリ											

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

別紙第一

1941年12月初現在帝國陸軍地上部隊編成及展開狀況

方面	司令部名	所在地	管轄地域	要 領		
				師団長ニ準スルモノ	混成旅團及之ニ準スルモノ	獨立聯隊
内地 朝鮮 臺灣	防衛總司令部	東京	本洲、四國、九州			
	東部軍司令部	東京	東北、關東、北陸	52D	61LB, 62IBs, 67IBs 東AAB (11-)	
	中部軍司令部	大 阪	近畿、中部	54D	63LB, 64LBs 中AAB (11-)	6TK
	西部軍司令部	福岡	中國、四國、九州		65IBs, 66LBs 西AAB (11-)	
	北部軍司令部	札幌	北海道、千島、樺太	7D	樺太Bs	
	朝鮮軍司令部	京城	朝鮮	20D, 19D		15SA
	臺灣軍司令部	臺北	臺灣			
滿洲	關東軍司令部	新京	滿洲	29D, 28D, 10D	7獨守	4SA, 2SA (8-), 東FeA, 13AA, 9Ps, 2E (7-), 4TL
	3A司令部	牡丹江	牡丹江、寧安、蛟河	9D, 12D	1國守, 2國守, 3國守, 7TKB (5-), (5-), (7-)	20SA, 2SA (8-), 4FeA, 17AA, 23Ps, 3E, 3TL
	4A司令部	北 安	14省北、安東、河地	14D, 10D, 57D	5國守, 6國守, 13國守, 13國守, 7國守	9SA, 10SA (8-), 旅FeA, 23TK (10-7), 5Ps, 4E, 6TL
	5A司令部	東 安	東安、虎林、地區	11D, 24D	12國守, 3KB, 2TKB, 4國守 (7-)	7SA, 1As, 2FeA, 7Ps, 12Ps, 9TL (18-), (7-)
	6A司令部	ハイル	興安、省以西	23D	8國守	22SA, 4BA, 3FeA, 24Ps, 27Ps (8-), (8-)
	20A司令部	雞 寧	雞寧、沐口、地區	8D, 25D (9-), (9-)	2國守, 3國守, 10國守, 11國守 (9-), (9-), (9-), (9-)	2SA, 10SA (9-), 4TL, 4FeA (9-), (9-)
	關東防衛司令部	新京	南滿、地區		1獨守, 2獨守, 3獨守, 5獨守, 9獨守	5SA (7-), 5FeA (8-), 22Ps
支那	支那派遣軍總司令部	南京	支 那			
	北支那HA司令部	北 京	北 支 那	27D, 170D, 35D (4-)	1Bs, 4Bs, 8Bs, 15Bs, 7Bs (4-)	5TL, 15AA
	1A司令部	太 原	山西、地 區	37D, 41D, 36D (4-)	16Bs, 2Bs, 3Bs (4-)	9TL, 6SA
	12A司令部	濟 南	山東、地 區	14D, 32D	5Bs, 6Bs, 10Bs	10TL
	駐蒙軍司令部	張家口	蒙疆、地 區	26D KK	2Bs	11TL
	11A司令部	漢 口	武漢、地 區	3D, 6D, 15D, 39D, 40D, 34D	14Bs, 18Bs	13TL, 2Ps, 22AA, 14SA, 15SA
	13A司令部	上 海	中支、地 區	22D, 15D, 116D	11Bs, 12Bs, 13Bs, 7Bs, 20Ps (11-)	12TL, 21AA
那	23A司令部	廣 東	南支、地 區	28D, 104D, 51D (9-), (9-)	19Bs (7-)	10BA, 17Ps, 20Ps, 14TL, 1FeA (7-), (7-), (7-), (7-2), (9-)
	南方軍總司令部	サイゴン	比島、馬來、南洋、印度、支那	21D	21Ps	4LS, 23AA

内地朝鮮臺灣	東部軍司令部	東京	東北、關東、北陸	52D	67Bs, 12Bs, 17Bs 東AAB (11-)	
	中部軍司令部	大坂	近畿、中部	54D	43Bs, 44Bs 中AAB (11-)	6TK
	西部軍司令部	福岡	中國、四國、九州		45Bs, 46Bs 西AAB (11-)	
	北部軍司令部	札幌	北海道、千島、樺太	7D		
	朝鮮軍司令部	京城	朝鮮	20D, 19D		15SA
	臺灣軍司令部	臺北	臺灣			
滿洲	關東軍司令部	新京	滿洲	29D, 28D, 10D		4SA, 8Ps, 13AA, 13Ps, 2E, 4TL
	3A司令部	牡丹江	牡丹江、熱河	9D, 12D	1國守, 2獨守, 1TKB (1-7)	20SA, 2SA, 44A, 17AA, 23Ps, 3E, 3TL
	4A司令部	北安	44ハル北、綏遠、河北	14D, 1D, 57D	5國守, 1國守, 13國守, 13國守, 7國守	9SA, 10SA, 3TK, 23TK, 5Ps, 4E, 6TL
	5A司令部	東安	東安、虎林地區	11D, 21D	12國守, 3KB, 2TKB, 4國守	7SA, 1As, 2FeA, 7Ps, 12Ps, 9TL
	6A司令部	ハイル	興安、綏西	23D	8國守	22SA, 4BAs, 3FeA, 24Ps, 27Ps
	20A司令部	雞寧	雞寧、林口、3區	8D, 25D (9-)	2國守, 3國守, 10國守, 11國守 (9-), (9-), (9-), (9-)	2SA, 10SA, 4TL, 4FeA (9-), (9-), (9-), (9-)
	關東防衛司令部	新京	南滿地區		1獨守, 2獨守, 3獨守, 5獨守, 9獨守	5SA, 5FeA, 22Ps (9-), (8-)
支那	支那派遣軍總司令部	南京	支那			
	北支那HA司令部	北京	北支那	27D, 110D, 35D (4-)	1Bs, 4Bs, 8Bs, 15Bs, 7Bs (4-)	5TL, 15AA
	1A司令部	太原	山西地區	37D, 41D, 36D	14Bs, 2Bs, 3Bs (4-)	9TL, 6SA
	12A司令部	濟南	山東地區	17D, 32D	5Bs, 6Bs, 10Bs	10TL
	駐蒙軍司令部	張家口	蒙疆地區	26D, KK	2Bs	11TL
	11A司令部	漢口	武漢地區	3D, 6D, 1D, 39D, 40D, 34D	14Bs, 18Bs	13TL, 2Ps, 22AA, 14SA, 15SA
	13A司令部	上海	中支地區	22D, 15D, 116D	11Bs, 12Bs, 13Bs, 7Bs, 20E (11-)	12TL, 2/AA
南方	23A司令部	廣東	南支地區	38D, 104D, 51D (9-), (9-), (9-)	19Bs (9-)	10BAs, 19Ps, 20Ps, 14TL, 1FeA (9-), (9-), (9-), (9-2), (9-)
	南方軍總司令部	サイゴン	比島、蘭領、暹羅	21D (1-)	21Bs (11-)	4LS, 23AA (11-4), (11-7)
	14A司令部	高雄	比島	16D, 48D (11-), (11-1)	65Bs (11-)	4TK, 7TK, 1SA, 8SA, 3Ps, 21Ps, 6E, 2TL (11-1), (11-5), (11-5), (11-), (11-2), (11-2), (11-2), (11-)
	15A司令部	佛印	泰	33D, 55D (11-), (11-)		
	16A司令部	高雄	(作戰準備中)	2D (11-)	56Bs (11-4)	8TK, 17SA, 16AA, 1Ps, 15TL (11-), (11-), (11-7), (11-), (11-)
備考	25A司令部	三亞	馬來半島	6D, 5D, 18D, 56D (11-), (11-), (11-), (11-)	3TKB (11-4)	3BA, 3SA, 18SA, 4Ps, 5Ps, 23Ps, 5E, 9E, 1TL, 6TK, 2TK (11-2), (11-3), (11-3), (11-3), (11-5), (11-3), (11-3), (11-7), (11-), (11-)
	1. 本表ノ外大本營直轄トシテ南海支隊司令部ナリ。 2. 4Dハ大本營直轄トシテ上海=集結シアリ (1943.2月迄)					

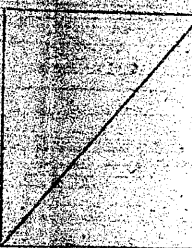
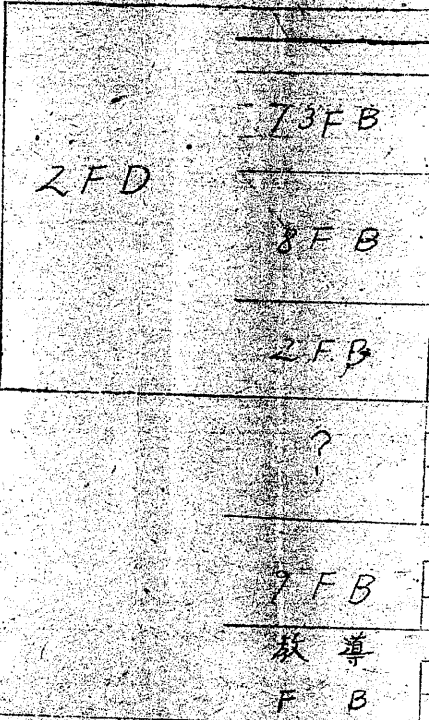
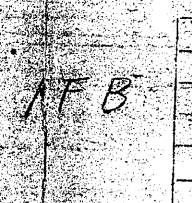
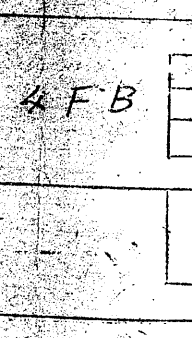
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0039
0040

別紙第二

1941.12.7ニ於ケル陸軍航空ノ編成及展開状況

地域	航空隊	飛行兵團	飛行團	戦術中隊	機種別	基地
内地		1FD		(2) F	二	各務原
				(3) F	三	八日市
				(4) F	ハ	大井洗
				(5) F	ハ	柏
				(7) F	●	浜松
				(13) F	ハ	
				(24) F	ハ	
満洲	航空兵團	2FD		28 F	ハ	新京
				25 F	ハ	牡丹江
				87 F	ハ	温春
				2 F	○	团山子
				3 F	ハ	海浪
				58 F	●	团山子
				6 F	○	佳木斯
				7 F	ハ	杏樹
				74 F	●	杏樹
				95 F	●	安化
				70 F	ハ	敦化
				206 F	ハ	敦化
				27 F	ハ	朝鮮平壤
				51 F	●	滿洲延吉
				208 F	ハ	
				201 F	ハ	
				24 F	ハ	延吉
支那		1FB		44 F	ハ	ハハル
				18 Fc	二	白城子
				45 F	○	白城子
				25 Fc	ハ	南
				28 Fc	ハ	鎮西
南		5FD		50 F	ハ	屏東
				8 F	ハ	屏東
				14 F	●	佳冬
				16 F	○	屏東
				10 F (74 Fc)	ハ	嘉義
				(70 Fc) 70 Fc	ハ	恒春
				52 Fc	ハ	屏東

洲			?	24 F	●	
				95 F	●	
				20 F	△	
				206 F	—	
支那			F B	24 F	—	滿洲
				51 F	●	
				205 F	—	
				204 F	—	
南方	5 F D	4 F B		50 F	△	台灣
				8 F	—	
				14 F	●	
				16 F	○	
				10 F (74 Fc)	—	
				(70 Fc) 76 Fc	—	
	3 F D	10 F B		52 Fc	—	佛
				62 F	●	
				27 F	△	
				37 F	○	
		7 F B		20 Fc	—	印
				12 F	●	
				10 F	●	
				78 F	●	
		3 F B		44 F	△	及
				51 Fc	—	
				59 F	△	
				27 F	△	
方				25 F	○	及
				90 F	○	
				15 F (-51 Fc)	—	
				12 F B	△	
				1 F	△	及
				81 F	△	
				83 F (71 Fc)	—	
				75 F	—	
				87 Fc	—	及
				21 Fc	○	
				82 Fc	○	及
				84 Fc	△	

註
 1 印ヲ附セルハ判明セサルモノヲ示ス
 2 戦隊番號中()ノ印ヲ附セルハ教育部隊ヲ示ス
 3 若干ノ過誤ナキヲ保シ難シ

3号-4

別紙ノ如シ
一九四一年未以降陸軍兵力増強ノ件

陸
軍

0041

12 1941 以降陸軍兵力増強ニ關スル件	年 月 日	兵 力 (編制定員)	計畫セル 戦闘最大 兵 力	増強率	左記増強兵 力ノ實現率	召集人員ノ範圍	兵備増強上ノ制約因子
	1941 (16)	210 萬	+40萬	約23%	40萬 (100%)	軍動員優先ノ見地ニ基キ要員ヲ取得セリ 即チ軍動員ノ見地ニ於テ適戰適所主義ニ徹シ部隊ハ戦力ヲ向上スルヲ第一義トセリ但シ總動員上ノ要求ハ戦時召集延期者制度ヲ以テ之ヲ満足セシムル如ク考慮セリ 而シテ其ノ數字ノ細部ニ關シテハ統計的記錄燒却ノ爲詳細不明ナルモ昭和19年度ハ農業23%工業43%交通業8%其他26%ナリ	軍備増強ノ制約ハ一ニ資材生産力ニ懸リアリタルカ1943年迄ハ概ネ兵備計畫ニ追隨シ待タクト雖モ1944年以降ハ資材生産力ノ減少ヲシ兵備増強ニ關シテ著シキ制約ヲ及ボスニ至セリ 其ノ狀況ハ別記 軍需生産ト兵備トノ關係ニ記述シアルカ如ク及備ニ徹底セル爲其額ノ部面ニ於テ約5%實現不可能ナリヤ
	1942 (17)	240 萬	+30萬	約14%	60萬 (200%)		
	1943 (18)	310 萬	+75萬	約31%	70萬 (約93%)		
	1944 (19)	410 萬	+110萬	約36%	100萬 (約90%)		航空兵器及發動機ノ生産十分ナサルヲ爲航空及船舶兵備ニ於テ約4%實現不能ナリキ
	1945 (20)	641 萬	+250萬	61%	250萬 (100%)	總動員上ノ要求ヲ主トシ部隊ノ戦力向上ハ大等ニ考ヘテレタリ從テ農業工業及通信關係者等ハ極度ニ其召集ヲ制限セラレタリ	

(納谷典・原)

0002

陸
軍

又陸軍兵力増強ニ伴フ軍需生産ト兵力増加トノ關係次ノ如シ

昭和十七年前半頃迄ハ兵備計畫ハ軍需生産ト相互關聯性ヲ有シテ計畫的ニ實施セラレタリ然ルニ戦況ノ熾烈化ハ作戰上ノ要求ニ基テ兵力ハ急激ニ膨張シ一方軍需生産ヘ之ニ反比例スル惡條件ノ下ニ生産ヲ縮少セサルヘカラスルニ至リ特ニ一九四四年以降ニ於テ兵備ト軍需生産トハ節調ヲ失シ兵備ニ即應シ得サルニ至リ著シク裝備ヲ低下セル兵備ヲ實施スルノ止ムヲ得サルニ至レリ其ノ概況簡表第一乃至第三ノ如ク要點ヲ摘記スレハ左ノ如シ

(一) 一九四三年迄ハ軍需生産ハ概ネ兵備實施ニ追隨スルヲ得タリ

(二) 一九四四年以降戦況ノ惡化ニ伴フ船舶損耗及空襲被害ノ増加ハ著シク基礎産業ヲ動搖セシメ兵力ノ増加ト著シキ離反ヲ示スニ至レ

軍需生産ハ既往ノ野戦、工廠ノ製造等ニヨリ原料供給力ヲ確保
シテ相當ノ勢力ヲ示セルモ兵力ノ増加ニハ遙カニ追隨シ得ス

(三) 右ノ如クシテ部隊ハ着シク兵ノ整備ヲ低下シ若クハ整備ヲ有セス
部隊ノ團結ト教育訓練ヲ向上スル目的ヲ以テ部隊ヲ編成セサルノ
止ムヲ得サルニ至ル 裝軌車輛、自動貨車、機關銃、火砲等減少
シ小銃ノミ増加セルハ右ノ動向ヲ示スモノナリ

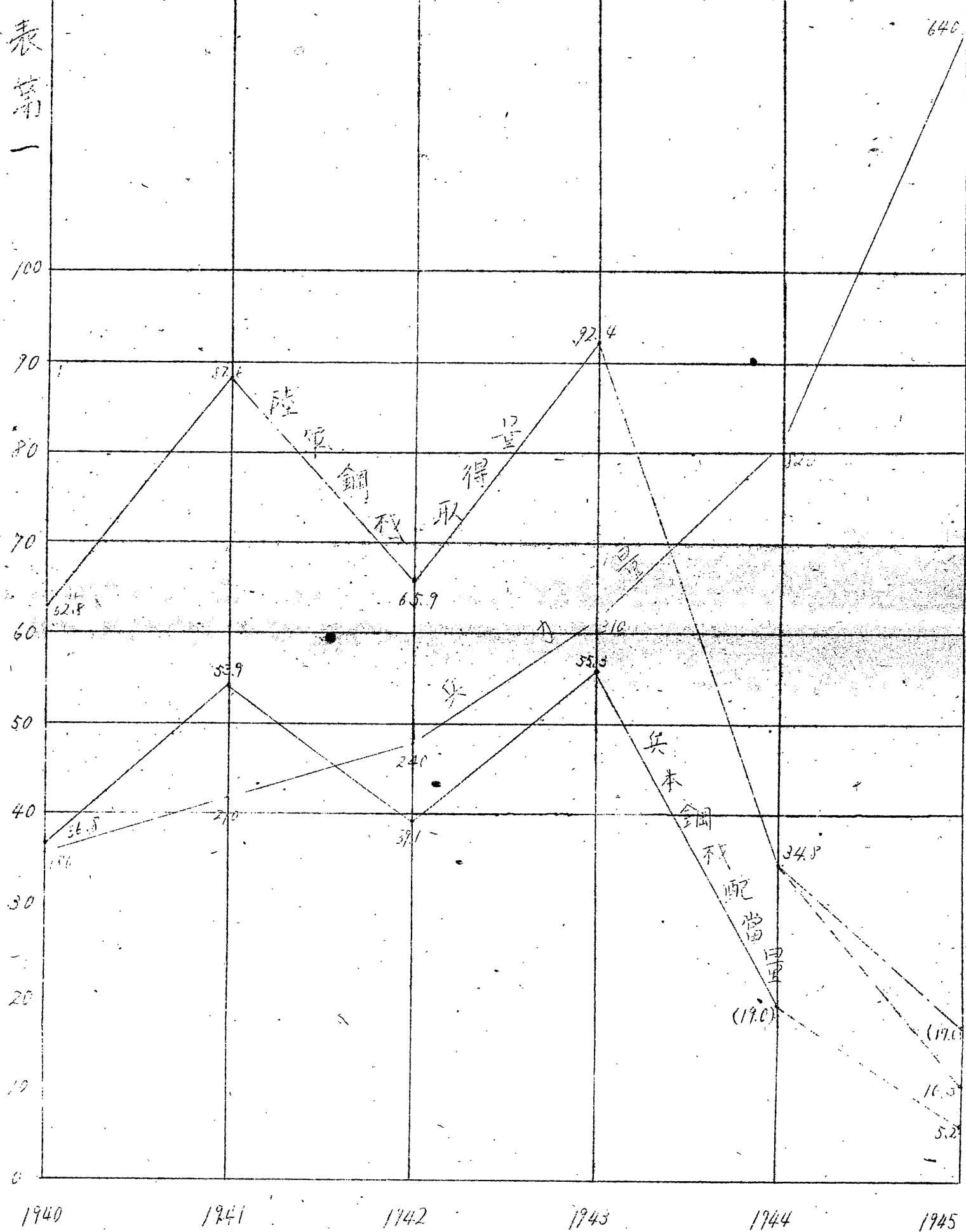
(四) 被服糧秣具ノ他ニ於テハ供給量ハ減少シタルモ之カ保備ニ留意シ
タル爲規格低下ニヨリ終戦直前迄概ネ其ノ整備ヲ充足スルヲ得タ

リ

(納谷英・京東)

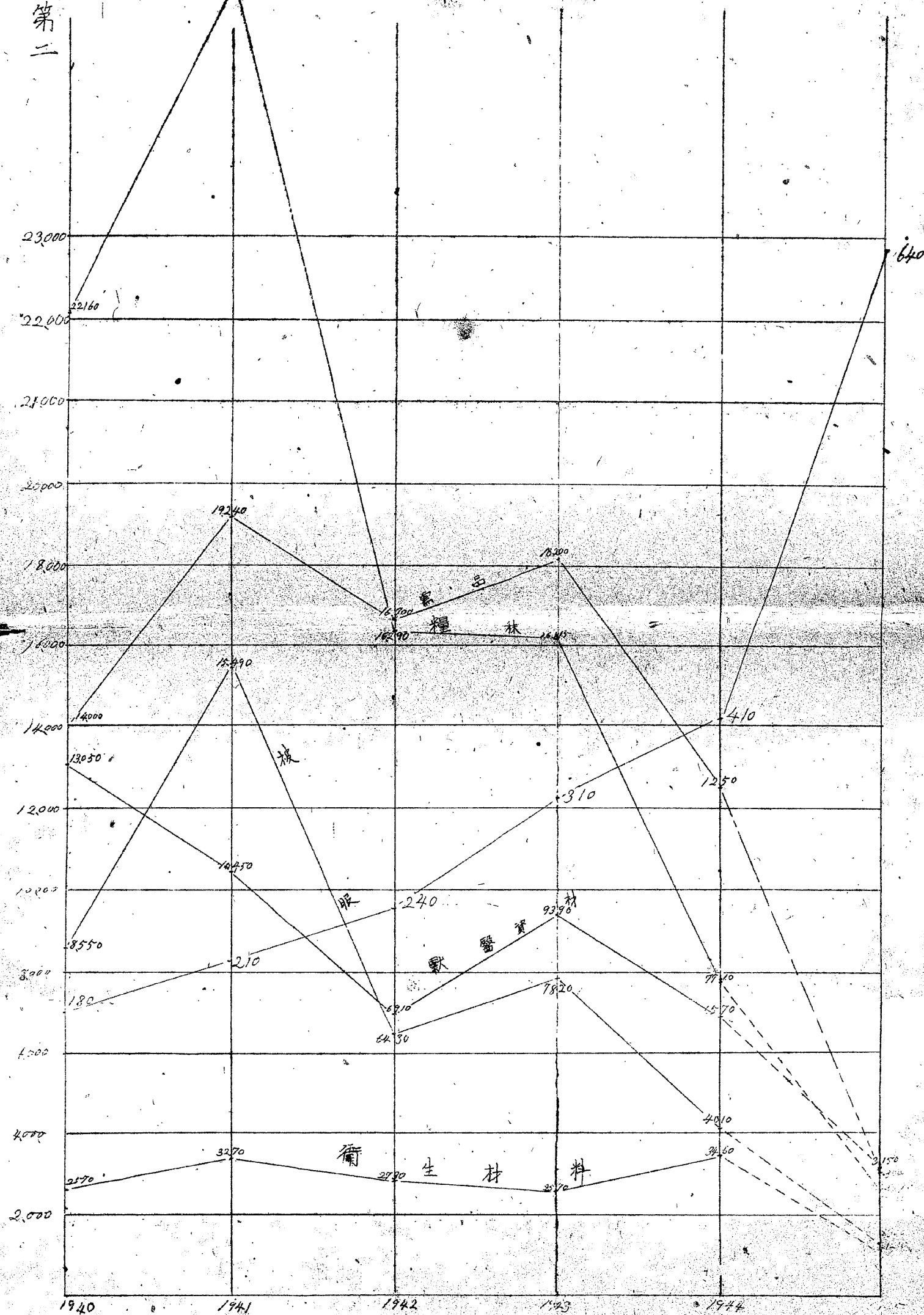
0044

付表第一 軍需生産用普通鋼材、配當量と兵力増加の関係



附表第二

軍需生産用普通鋼材配当量
兵力増加との関係



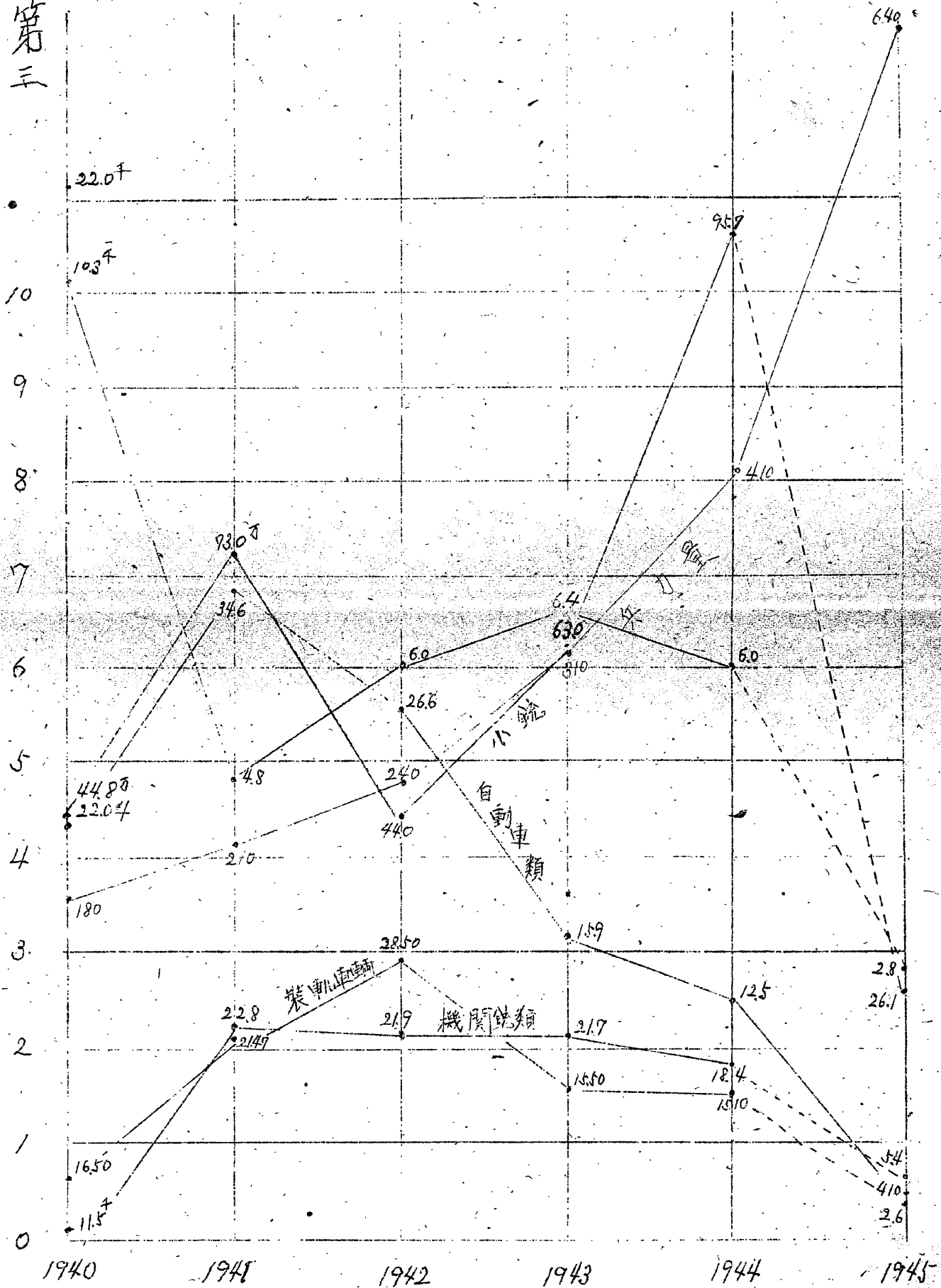
0046

附表第三

兵器生産量と兵力増加との関係

3-8

0047



六記號及斷片的資料ヲ綜合スルニ一九四一年十二月現在ニ於ケル

帝國陸軍全般作戰計畫ノ骨子ハ左ノ如キモノナリ

第一兩方作戰

一、作戰目的

兩方作戰ノ目的ハ東亞ニ於ケル米國、英國次ヲ蘭國ノ主要ナル根據ヲ撤滅シ兩方ノ要域ヲ占領確保スルニ在リ

本作戦ニ依リ占領ヲ企圖スル範圍ハ比律賓、瓦無島、香港、英領馬來、緬甸、爪哇「スマトラ」「ボルネオ」「セレベス」「ビスマルク」諸島諸領「チモール」島等トス

二、作戰方針

陸海軍緊密ナル協同ノ下ニ比律賓及英領馬來ニ同時ニ作戰ヲ開始シ短メテ短期間ニ作戰目的ヲ完達ス

右方針ニ基テ作戰指導要領

ノ馬來ニ對スル先鋒爲國ノ上陸ト比律賓ニ對スル要港トヲ以テ作戰ヲ開始シ續イテ航空作戰ノ成果ヲ利用シ主力ヲ以テ

先ア比律賓ニ次ナ馬來ニ上陸セシメ、比律賓及馬來ヲ攻
略ス

海ニ作戦ノ初期凡無島香港及英領「ボルネオ」ノ要地ヲ占
領シ又泰國及印度支那ノ安定ヲ確保ス

以上ノ開成ルヘテ速ニ「ビスマルク」諸島、南領「ボルネ
オ」「セレベス」等ノ要地ヲ次ナ馬來作戦ノ進發ニ伴ヒ南
「スマトラ」ノ要地ヲ占領シ爪哇ニ對スル作戦ヲ準備スル
ト共ニ資源要域ヲ確保ス

「モルツカ」群島及「ブモール」ノ要地ヲ占領ス

2 海軍航空基地ノ整備ニ伴ヒ敵航空勢力ヲ制壓シ爪哇ヲ攻
略ス

又新嘉坡占領後、同時北郡「スマトラ」ノ要地ヲ占領ス

3 以上ノ作戦中米軍主力艦隊ノ行動ニ懸シ聯合艦隊力進軍配
備ニ特快スル場合或ハ露艦部隊等アルモ比律賓及馬來作戦
ハ繼續進行シ爲シ得ル限り速ニ既定作戦目的ノ完遂ヲ圖ル

日本標準規格 B-4

0049

其以上ノ開戦ヲ見テ南滿洲ノ航空基地等ヲ奪取シ製作戦
艦ホ一段落シ状況之ヲ計スルニ細向處置ノ爲ノ作戦ヲ實
施ス

馬使用兵力

本作戦ニ使用スル陸軍兵力ハ總圖十二戰車聯隊及飛行集團
ヲ其他所要ノ軍區部隊ヲ基幹トシ其兵團區分故使用方面ヲ
左ノ如ク豫定ス

總軍司令部

- 第十師團 二師團ヲ基幹トシ北後方方面ニ作戦ス
- 第十五師團 二師團ヲ基幹トシ後及細向方面ニ作戦ス
- 第十六師團 三師團ハ内二師團ハ他作戦終了方面ヨリ轉用
シタルモノヲ基幹トシ南向方面ニ作戦ス
- 第二十五師團 四師團ヲ基幹トシ馬來方面ニ作戦ス
- 南方軍區屬 一師團、一混成旅團、二飛行集團ヲ基幹トス

一 國體ヲ基幹トスルモノヲ以テ香港方面ニ作

「トシ瓦無島、一ビスマタ」諸島

Figure 1

五、四、三、二、一

轉收開始第一日（別三指示）又開戰前日本外交勢成立（七）作

五、







／ 國 民 報 作 戰

同戰勞爾海軍總司令官ハ協同シテ臺灣及「巴拉オ」万
面並ニ海軍部隊ヲ以テ「バレン」島ヲ包圍シ強力ニ進行
場ヲ整備ス

先選區股（比律賓）與又九航型第一戰／請自步以得其／

集合點ヲ設シ陸海軍協同シテ「アバリ」「ピカン」(次
 テ「クオアグ」「レガスビー」及「ダバオ」附近ニ上陸
 シ先ヅ航空基地ヲ占領整備ス

陸海軍航空部隊ハ右ニ伴ヒ航空基地ヲ推進シテ航空作戦
 ヲ續行シ其ノ成果ヲ利用シ第三艦隊ヲ進幹トスル部隊
 高ノ下ニ第十四軍主力ヲ以テ「ランガエン」(同附近ニ一艦ヲ以テ
 開始シ洲ニ「マエラ」ヲ攻陥シ引續キ群島内ノ要地ヲ占
 領ス

軍主力ノ上陸後進時混成一旅團ヲ呂宋島ニ進メ又該ホ作
 戦目的ヲ達成セバ第四十八師團ヲ南領印度支那兵團トシ
 テ「マエラ」附近ニ集結ス

ニ 南領馬來作戦

第二十五軍第三飛行集團及南進部隊ヲ進幹トスル部隊ハ
 其ノ先遣兵團ヲ以テ作戦第一日「バンドン」「ナコン」

「シンゴラ」「パタニー」附近ニ上陸シテ航空基地ヲ占領整備ス又陸海軍航空部隊ヘ作戦第一目以陸海軍間互支那方面ヨリ主トシテ英領馬來方面ノ敵航空勢力掃蕩ヲ取除ス

萬一英國側ノ警戒嚴重トナリ英軍ノ有力ナル艦艇等カ「ジャム」灣ニ出沒シ上陸ノ可能性少シト認メラルル場合ニ於テハ陸海軍航空部隊ヘ協同シテ作戦第一目以降敵航空勢力、艦艇ヲ取除スルト共ニ先遣兵團ヘ務メテ少數ノ艦艇部隊ヲ以テ「バンドン」「ナコン」及要スレハ「シンゴラ」「パタニー」附近ニ上陸シテ機動地ニ航空基地ヲ占領整備シ續テ先遣兵團ノ主力ハ上陸ヲ開始シテ艦艇部隊ノ戦果ヲ擴張ス

第二十五軍ノ主力ハ先遣兵團ノ上陸ニ續テ延次南進シテ上陸シテ馬來上陸先遣兵團ノ戦果ヲ擴張シ遠ニ新嘉坡ヲ

政略ス本作戦ノ進展ニ伴ヒ接ヲ見テ一兵團ヲ勢メテ南方ニ於テ馬來東洋ニ上陸セシム

3 對英領「ボルネオ」作戰

開戦初頭南方軍直轄ノ一部ヲ以テ「ミリ」ヲ占領シ實領要域ニ航空基地ヲ確保ス

「ミリ」ヲ占領シタル後引續キ「クタン」ヲ占領シテ航空基地ヲ獲得整備シ海軍航空部隊ヲ進出ス

4 對香港作戰

第二十三軍ノ一兵團及第二連文藝隊ヲ起幹トスル部隊ヲ以テ馬來方面ニ出スル先遣兵團ノ上陸又ハ空襲ヲ準備シタル後作戰ヲ開始シ先ツ所在敵艦艇ヲ撃滅スルト共ニ九龍半島ニ於ケル敵陣地ヲ突破シタル後香港島ヲ攻め香港政略ヲ完了セハ敵兵團へ連領印度政略兵團トシテ同地附近ニ集結ス

日本標準規格 B-4

0055

よ、瓦無島及「ビスマルタ」諸島作戦

瓦無島及「ビスマルタ」諸島ニ對スル作戦目的、南海支隊及第四艦隊ヲ基幹トスル部隊ヘ先ツ瓦無島ヲ攻略シ次「ビスマルタ」諸島ノ航空基地ヲ占領シ南洋群島方面ニ對スル敵ノ脅威ヲ封殺ス

之カ爲先ツ作戦初頭瓦無島ヲ攻略シ次テ南海支隊ヘ瓦無島ノ守備ヲ陸戦隊ト交代シ續テ見テ南海軍艦同「ラバウルー」ヲ占領シ航空基地ヲ獲得ス

爾後南海支隊ヘ成ル可ク進ニ同地ノ守備ヲ陸戦隊ト交代シ「パラオ」附近ニ轉進ス

△南領領土作戦

此種作戦間陸海軍協同シテ成ルヘタ進ニ第十六軍ノ一連ヲ以テ先ツ「タラカン」次テ比律賓作戦及馬來作戦ノ狀況ニ應ジ進次「バリ」ヲババン「ベンジエルマシ」ヲ攻略ス又右作戦間又ハ作戦終了後機ヲ見テ「アンボン」及

「ターバン」ヲ取略シ該島ノ航空基地ヲ整備スルト共ニ資
源要域ヲ確保ス
此ノ間海軍ハ「タラカン」取略ト概不同時ニ準備ムヲ定メ
「メナド」ヲ次テ「ヤンダリ」「マカフサル」ヲ占領確保
ス
又「タラカン」及「アンボン」ハ該方面作戦ノ最要要域
ルヘタ速ニ海軍之ヲ交代守備ス
別ニ第十六軍ノ一師ヲ以テ英領馬來ニ對スル作戦ノ進機ニ
伴ヒ機ヲ見テ「バンカ」島ノ要地及「バレンバン」ヲ占領
シ航空基地ヲ整備スルト共ニ資源要域ヲ確保ス
前掲航空基地ノ整備ニ伴ヒ爪哇方面航空勢力ヲ制壓シタ
ル後第十六軍主力ヲ以テ「パタビヤ」附近西島爪哇ニ又比
島方面ヨリ特用ノ一兵團ヲ以テ「ストラバヤ」附近東島爪
哇ニ上陸シ進ニ「パタビヤ」「バンドン」「ストラバヤ」ヲ占
領シ外續々爪哇ノ要域ヲ決定ス

新嘉坡占領後「マラッカ」一帯を制圧せしむルニ至ラハ第二十五軍ノ一部ヲ以テ暹羅島東半島西海岸方面ヨリ「メダニ」附近ニ上陸セ「アイエー」地方ノ要城ヲ次チ襲撃ス見テ「サバン」島ヲ占領ス

英領婆羅洲及緬甸作戰

香港及緬甸ニ對スル初期作戰目的ハ香港ノ安定ヲ確保スルト共ニ馬來方面ノ作戰ヲ容易ナラシメ併セテ緬甸ニ對スル戦後ノ作戰ヲ準備スルニ在リ

開戦初期第十五軍ハ一部ヲ以テ南緯印度支那ヨリ中越及南越ニ進入シ同方面ノ要地ヲ確保スルト共ニ「」ヲ以テ「」トトリポイント」附近ヲ占領ス

第十五軍主力ハ印度支那ヨリ逐次「バンコク」附近ニ前進シ泰國内ノ要地ヲ占領ス

以上軍ノ進路進駐ハ海路ヲ取道トセサル意圖ニ基キ勢メテ平和親善行フヘキモノトス

第十五軍ハ一部ヲ以テ觀ヲ見テ「ムートルメン」等ノ叛逆
 地ヲ占領ス
 別ニ南方軍直轄ノ一兵團ハ北亞印度支那ニ對シ南方軍ノ安
 定確保ニ任セ特ニ支那軍ノ進入ニ對シ警戒ス

第二南方作戰發動ニ伴フ補充作戰

支那ニ對シテハ帝國海軍ト陸軍ト概キ現在ノ態勢ヲ保持スルト
共ニ支那ニ於ケル米英等敵側海軍力ヲ殲滅シテ歐陸ト相俟テ敵
敵艦通ニ努メ將敵艦ノ屈伏ヲ期ス

第三南方作戰發動ニ伴フ海軍作戰

英國ニ對シテハ概キ現在ノ態勢ヲ以テ警戒ヲ嚴メ且作戰準備
ヲ強化シテ極力戰爭ノ發生ヲ防止ス

又ノ最高戰爭指導會議カ大本營及政府ニ對シ計畫指令ヲ發セルカ
如キ事實ナシ

八(四)滿洲の作戰計畫ノ施行ニ方リ最初ノ期限ハ一九四二年五月新

ユ「ミッドウエー」首ニ「アイジ」一「サモア」攻略作戰ヲ
計畫セル事ナリ

右ハ日本軍ノ全般作戰目的達成ノ爲米國ト陸軍ヲ殲滅スル事
ノ必要ト之カ可能ナル見地ニトヨリ生シタルモノナリ
例證ニ於ケル作戰計畫ノ變更

出「ミッドウェイ」「フィジー」「サモア」作戦ノ中止等ニ
 前後ノ戦略的防務作戦ヘノ轉移（一九四二年六月―一九四
 三年二月頃）

原圖「ミッドウェイ」「ガダルカナル」「ココダ」「ブエ

作戦ノ失敗

例帝國國防圖ヲ千島―本州―小笠原―中部太平洋―西部「エ
 ユーギエヤ」―「スエダ」列島―「ジャバ」―「スマタ」
 ー「アンダマン」・「ニコバル」―「ビルマ」ノ線ニ決定（一
 九四四年二月）

原圖 〇船舶ノ損耗

〇米軍ノ攻勢戦力ノ充実

〇「ソロモン」群島及「ニューギニア」ノ喪失

対比島、ジャバ、スマトラ、馬來、ビルマ、印度支那半島ヲ
 含ム南方圖ト本土圖及兩者接續帶トシテ南西諸島、臺灣、
 支那沿岸ヲ確保シ來攻スル敵ニ對シ決戦ヲ期スル如ク作戦

計畫ノ修正（一九四四年七月）

原因 「マリヤナ」ノ失敗

（日本土及支那ヲ中絶トスル要領ヲ確保シ敵軍ヲ徹底ニ破壊スル爲メ）
 求ムル如ク作戰計畫ノ修正（一九四五年一月）

原因 ○比島作戰ノ失敗

○制海權ノ喪失

（日本土及支那ヲ中絶トスル要領ヲ確保シ敵軍ヲ徹底ニ破壊スル爲メ）

原因 日本土及支那ヲ中絶トスル要領ヲ確保シ敵軍ヲ徹底ニ破壊スル爲メ

（日本土及支那ヲ中絶トスル要領ヲ確保シ敵軍ヲ徹底ニ破壊スル爲メ）
 求ムル如ク作戰計畫ノ修正（一九四五年一月）
 原因 ○比島作戰ノ失敗
 ○制海權ノ喪失
 （日本土及支那ヲ中絶トスル要領ヲ確保シ敵軍ヲ徹底ニ破壊スル爲メ）

原因 ○制海權ノ喪失

○輸送力ノ減退補給ノ困難

一〇 別表

一〇 別表
 一〇 別表
 一〇 別表

三〇〇〇
 三〇〇〇
 三〇〇〇

0062

カナル作戦ノ失敗ニ伴フ戦時方針ノ變更ヲ受動シテ
テ且戦時力ノ増減ハ敵ノ作戦進展ノ急ナルニ對シテ
ニ展開實施ノ中絶ニ致テ新會戰生起シ戦本組織ハ急遽
破タリ

イ「モートロフ」島ニ投入予定ノ艦ヲ「トク」島ニ
展開

ロ「バガン」島ニ投入予定ノ艦ヲ「サイパン」島ニ
展開

ハ「マサ」島ニ投入予定ノ艦ヲ「ガム」島ニ展開

ニ戦時中展開ニ於ケル地上兵力展開ノ實績別紙ノ如シ

ニ戦時中展開兵力ノ展開別紙ノ變更左ノ如シ

南洋東方面ノ確保ヲ斷念シ國防圖ヲ「マリアナ」ノ戦ニ
連テシムルノ作戦方針ニ基テ航空兵力展開

特ニナシ

此島作戰ヲ國軍ノ武裝トシテ指導スル方針ニ基テ該島兵
力ノ展開

南側ヨリ及北側ヨリ比島ニ接近シ決定ノ如ク展開スルヲ
務メルモ其ノ時日ノ短少ナリシ爲メ作戰諸般ノ準備ハ完
分之ヲ實行スルコトヲ能ハス

沖繩縣作戰ノ進展ニ伴フ國土武裝ノ戰術方針ノ強化ト定ム
伴フ該島兵力ノ展開時機作戰ノ進展ニ伴ヒ其ノ島局
ノ展開ヲ判断シ國土作戰ニ進展スルノ方針ニ基テ該島
除ノ展開ヲ左ノ如ク進展セリ

仙臺ノ主力ヲ朝鮮ニ移用シ本島部隊ヲ強化ス其ノ兵力戰
闘三團戰隊、輕歩一團戰隊、騎兵一々中隊軍備一々中
隊ヲ進出トスルモノニシテ定方展開ハ該島進出ニ展開
ノ如ク實行スルヲ務メリ

朝鮮方面軍戰隊兵力ヲ進出ニ移用セリ其ノ兵力戰隊八個
戰隊及輕三團戰隊、輕歩一團戰隊計百三十個ヲ進出ト

セルモノニシテ之ノ最モヘノ轉送モ亦國體尊嚴ニ實行
 セラレタリ
 編纂ニ係ルモノハ其ノ最モヘノ轉送モ亦國體尊嚴ニ實行
 用スルモノハ其ノ最モヘノ轉送モ亦國體尊嚴ニ實行
 前送トナレリ
 同本主ニ於テハ其ノ最モヘノ轉送モ亦國體尊嚴ニ實行
 高ノ國體尊嚴ノ最モヘノ轉送モ亦國體尊嚴ニ實行
 編纂ニ係ルモノハ其ノ最モヘノ轉送モ亦國體尊嚴ニ實行
 必要アリトシ此ノ方面ニ於テ最モヘノ轉送モ亦國體尊嚴ニ實行
 附手ノ決定ノ如ク最モヘノ轉送モ亦國體尊嚴ニ實行

空 軍 機 力						地 上 兵 力					
南 方 軍 直 轄	3 rd D					3 rd TKB 56D 78D 5D GD 25A					馬 力 作 戦
	8/11	10FB	12FB	7FB	3FB	司令 部					馬 力 作 戦
		62R(○)	11R(△)	12R(○)	59R(△)	55D 33D 15A					比 島 作 戦
	83 rd	77R(△)	11R(△)	60R(○)	27R(△)	司令 部					香 港 作 戦
2/FS	(○)	31R(○)	(○)	98R(○)	75R(○)	38D 48D 2D 16A					ガ ム 島 作 戦
	(○)	70R(△)	(○)	64R(△)	90R(○)	司令 部					ビ ス マ ル 諸 島 作 戦
	(○)	(○)	(○)	51R(△)	15R(△)	65B 48D 96D 14A					
	(○)	(○)	(○)	(-51R(△))	(○)	司令 部					
5 th D						38D 23A					
司令 部						司令 部					
1 st FB						55B					
司令 部						司令 部					